

## 『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

### 平成24年度派遣報告書

—ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校、ベトナム語、H24. 7. 1-H24. 9. 26—

平成 24 年入学  
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
博士課程 1 回生  
山田祐樹久

#### 自身の研究テーマについて

1986 年に実施されたドイモイ政策は、ベトナム経済・社会において基底的な変化を惹起した。同政策をもって市場経済化・対外開放が標榜され、以降、ベトナム経済は概ね継続的に成長を遂げてきた。同政策は農業部門においても大きな変化を惹起し、ドイモイ以前の集団農業体制が解体、個別農化が進んだ。個別農化は農家の生産意欲を引き上げ、食糧生産が飛躍的に拡大していった。

本研究の対象地域である北部紅河デルタは、南部メコンデルタに次ぐ主要穀倉であり、その社会構造は東南アジアの中でも特殊な性格を帯びている。東南アジア農村は一般的にルースな社会構造が指摘されるが、同地域は例外的にタイトな社会構造を持つと言われる。同地域デルタは開拓の歴史が極めて古く、既に 10 世紀の時点では人口圧力に対応すべく、土地の定期的な割替えを行う公田制が実施されていた。そして公田制は、同地域を特徴づける共同体的紐帯の強さの基盤となった。また村ごとに強い自治が見られ、自律的な農村社会が存在してきた。

しかしドイモイ以降、農村部においても市場経済の浸透が見られ、農家生計は多角化し、農業の複合化・商業化や農外就業が進展している。近年の変化の下で、旧来から同地域を特徴づけてきたタイトな社会構造、特に農村組織や共同体機能は、農村の市場経済化とどのように関わり合っているのか。これを議論しつつ、同地域特有の市場経済化プロセスを見出すことが、本研究の課題である。

#### 研修言語の概要

ベトナム語はベトナムの総人口の約 9 割を占めるキン族の母語である。長きに亘る中国の支配の影響から、表記の際には漢字や、漢字を利用してベトナムが生み出したチュノムが用いられてきた。しかし中国の影響下からベトナムを引き離したいフランスが、ベトナム語のローマ字表記であるクオックグー (Quốc ngữ) を行政等に導入し、独立後はベトナム民主共和国がクオックグーの普及運動を展開したため、ローマ字表記が普及して現在に至る。

#### 語学研修の内容について

授業は 1 週間に 4 日、1 日 2 コマ(45 分×2 コマ)受講した。筆者はベトナム語をほとんど学習していない段階で渡航したため、簡単な文法や日常会話を取り扱う初級テキストを授業で用いた。授業形式は先生と 1 対 1 で、基本的にはテキストに沿って授業を進めた。また、筆者の研究、ベトナムの文化、日常会話特有の表現等についてもしばしば話す機会があり、その際にテキストにない言い回しやイディオ

ム、単語に多く触れる事ができた。

ベトナム語は複雑な声調記号や発音記号を含んでおり、同じスペルの単語でも、声調発音・発音記号が異なると、全く意味が異なる。学習開始直後は、正確に単語の表記を覚えること、正確に発音することに苦労した。またリスニングに関しては、終始苦労し続けた。先生にゆっくり話してもらわない限り、日常会話文でも理解することが難しく、また、よく話す機会がある人のベトナム語しか聞き取ることができない、ということもしばしばあった。しかし文法に関しては比較的平易である印象を受け、単語をある程度覚えてからは、簡単な作文ができるようになり、会話も上達していく感覚があった。

最終的に、初級テキスト1冊を終えた。このレベルは、基礎的な日常会話を何とか理解できる程度であると思われる。日常生活を十分にこなすベトナム語を習得するには、一層の単語力、文法の知識が必要であり、同時に、より長期間現地に入り、耳を慣らしていくことが不可欠である。

### 研修期間中に印象に残った体験や経験

滞在中、ベトナム語で会話する機会には多く恵まれた。日本語の勉強をしているベトナム人学生と、ベトナム在住の日本人の交流会が2週間に1回、近所のカフェで行われており、この交流会に積極的に参加し、ベトナム人と接する機会を持つことができた。日本語とベトナム語を交えての会話は、特に訪越直後において大変勉強になった。また、渡航中に住んでいたアパートの大家さんがとてもフレンドリーな方で、昼食を作ってくれたり、歓迎会やお別れ会を開いてくれたり、とても親切にいただいた。大家さんとの会話は全てベトナム語であり、日常会話の訓練となった。最後に、アパートの近くに湖があり、週末はしばしば釣りをしていた。日本人の釣り人は珍しいらしく、釣り人によく話しかけられた。ベトナム人は一度仲良くなると、とても親密に接してくれるので、こちらから意欲的に話そうとすれば、ベトナム人との交流を多く持つことができることを実感した。

### 目標の達成度や反省点について

渡航前に、以下6点の語学研修目標を立てた。

- ① ネイティブの日常会話の内容を、6割程度聞き取ることができるようになる
- ② 基礎的な日常会話文を話すことができるようになる
- ③ 中学英語の教科書レベルのベトナム語文を訳すことができるようになる
- ④ いくつかのイディオムを覚え、簡単なベトナム語作文ができるようになる
- ⑤ 研究に関する専門用語に関し、スペルや発音を覚える
- ⑥ 自身の研究概要をベトナム語で話せるようになる

②、③、④に関しては、概ね達成できた。しかし①に関しては、基本的な日常会話でさえ、6割程度聞き取るのがやっとであった。ベトナム語の聞き取りには、耳が慣れるまで長期間必要であることを痛感した。⑤、⑥に関しても少々達成から遠かったように思う。研究に関して、ベトナム語で会話する機会がほとんど無かった。ベトナム人研究者と会う機会があったが、その際に英語を使ってしまい、⑤、⑥の鍛錬の重要な機会を逃してしまっていた。



お世話になった先生と①



お世話になった先生と②



紅河デルタの田園風景